

令和5年度 福生市立学校 学校経営方針

学校名 福生市立福生第七小学校	校長名 山岸 史子 公印
-----------------	--

教育目標

- よく考え、進んで学ぶ子 「課題発見・解決能力」
- ◎明るく、おもいやりのある子 「創造性」「コミュニケーション能力」
- 体をきたえ、がんばりぬく子 「心身の健康」「実践力」

学校を核として保護者・地域と共に子どもを育てる、かかわり・つながり・高め合う学校

1 目指す特色ある学校像

◇地域・保護者と共に、「生きる力」を育む学校

コミュニティ・スクールとして、地域に育つ子どもたちが地域に生きる人として成長できるよう、様々なひと・こと・ものに関わり学べる「本物体験」を実施する。

様々な学びを通して、多様性を認め合い、他者と連携・協働しながら困難にも立ち向かい、未来を切り拓いていく「生きる力」を育てる。

◇互いに尊重し合い、生き生き伸び伸びとした笑顔があふれる学校

安全・安心な居場所づくりを基盤とし、その中で自他への理解を深め、尊重し合う人間関係構築力を育む。また、教職員のライフ・ワーク・バランスを見据えた校務改善を図ることで児童に関わる教職員の心身の健康を重視し、自他の命や尊厳を大切にし、誰もが笑顔で自己実現に向かう力を伸ばしていける環境づくりをする。

◇学習・生活の基礎・基本を身に付ける学校

子どもたちが、「できた」「できる」と思える事柄を、生活でも学習でも増やしていくことで、自己肯定感につながり新たな挑戦への意欲につなげる。児童の実態を適切に捉え、家庭や関係機関と連携しながら、個別最適な学習環境づくりをする。ICT等の積極的な活用を含め、教職員の研修機会を増やし、学び合い高め合う楽しさを共有する。

2 学校経営の目標

(1) 中期的目標

- ①コミュニティ・スクール事業を通じて、地域を舞台にした本物体験を通してひと・こと・ものにかかわり、主体的に探究しようとする意欲を育て、次世代を創るために必要とされる資質・能力を身に付ける。
- ②集団の中で互いを認め、励まし高め合う関係性を築き、共生・協働ができる力を育てる。
- ③多様性を認めて生かすグローバルな視点で物事を捉え、児童・保護者・地域・職員が自分の力を発揮できる「チーム七小」という学校組織力の強化を図る。
- ④幼保小中の連続性を重視した一貫教育の充実を図る。

(2) 本年度の目標

- ①基礎・基本の定着
 - ア 学習のねらいを明確にし、主体的に学びに向かうための手立てを工夫する。
 - イ 児童の実態を捉え、個に応じた課題設定や解決の課程を工夫し、スモールステップによる達成と挑戦の積み重ねにより、学びに向かう意欲と能力を育てる。
 - ウ 個別最適な学び方や意見交流、協働的な学びの場の工夫のために、ICTの積極的な活用するとともに、児童の情報リテラシーの向上を図る。
 - エ 保幼小中の連携により、学びに向かう力の積み上げによる効果的な学習力の育成、及び三中校区の小中一貫校を目標にした学びの連続・接続のための具体的な内容を作る。
- ②自他を理解し大切にできる温かい心、広い視野で考えられる豊かな心の涵養
 - ア 道徳授業を中心にし、人権感覚を養い、思いやり、柔軟性、目標をもって進む希望や

意欲、協働する力を育む。

イ 学校支援コーディネーターと連携し、地域人材と環境教材等を活用し、本物体験を通じて様々なひと・こと・ものと主体的にかかわり学ぶことができる学習環境を作る。

ウ いじめを許さない学校・学級経営の徹底し、いじめや不登校等の未然防止と早期解決に向け、組織的に対応する。

3 目標達成に向けての課題

- ① 本年度の目標と具体的なイメージの共有による教職員組織力の再構築
- ② 小中一貫校に向けた福生第三中学校・福生第五小学校との具体的連携計画の作成
- ③ コミュニティ・スクール事業の円滑な実践に向けた人材確保・次世代人材の育成
- ④ 道德教育の充実のための教職員の意識・見識と指導力の向上
- ⑤ 教職員一人一人のカリキュラムマネジメント力の向上
- ⑥ 基礎・基本の定着と学びに向かう力の育成のための授業力の向上
- ⑦ 家庭教育力への支援と関係機関とのケースに応じた適切な連携

4 経営の具体策

- (1) 互いを認め合い支え合うことで高め合える職員集団の形成
 - ア 相互交流を重視した運営・経営会議・・・・・・・・経営への参画意識の向上
 - イ 報告・連絡・相談の日常化・・・・・・・・何でも話し合える環境づくり
- (2) 知:発達段階に合わせた効果的な展開による学力向上
 - ア 授業力を向上させるための積極的な研修への参加
 - イ スタートカリキュラムの適切な推進、幼保小中高連携による学びの連携
 - ウ 一人一人の理解に寄り添う学びの個別最適化（タブレット端末等の効果的活用）
 - エ 校内支援委員会を活用した特別支援教育の推進・・・・適正な支援の提供
- (3) 徳: しなやかでたくましい心の教育
 - ア 校内研究を通じた道德授業力の向上と道德授業の充実、並びに道德授業地区公開講座及び家庭教育学級等の開催による家庭教育力啓蒙並びに地域・保護者の理解深化
 - イ 人権教育の推進を通じた多様性の理解と公正・公平な主体的行動力の育成
 - ウ 学校支援コーディネーターを核として運営する地域力を生かした学びの展開
 - エ コミュニティ・スクール授業（環境教育、七小ホタルプロジェクト、田植え他）による、ふるさと愛にあふれ命を大切に考える児童の育成事業の実施
- (4) 体: 運動の日常化による体力向上
 - ア 朝や中休み・昼休み等での運動の日常化と各種のスポーツに親しむ機会の設定
 - イ 全校児童での持久走、縄跳び週間等の取り組み
 - ウ 健康維持、意欲・気力の充実、発達・成長、体づくりを学ぶ保健授業・食育の実践

5 年度末のチェックポイント

- 取り組みごとに行う教職員・保護者・関係者によるアンケートをもとに、改善策を次回へ反映させる。
- 教育アンケート（1学期末・2学期末に児童・保護者対象）と学校評価（8月・1月に教職員対象）を実施し、結果の分析・検証をもとに次年度の経営計画・教育課程に反映させる。
- 学校関係者評価（CS委員・地域等）の実施と分析により、課題を明確化し改善する。
- 退勤時刻（勤務時間管理）・年2回授業日年休計画取得等の効果の検証をする。
- 安心・安全の観点から、随時の教育環境の確認と見直しを図る。